



垂水の 太布 鼓団

初版 平成29年10月吉日発行
第2版 令和4年3月吉日発行



垂水区長
山田 恒子

このたび、区内の伝統的な行事・文化・芸能の保存・継承を目的とした垂水郷土芸能保存会の活動におきまして、「垂水の布団太鼓」が発刊されることになり、大変うれしく思います。

垂水区においては、海神社の氏子地となる西垂水、東垂水、東高丸、塩屋の4地区に加え、舞子六神社の氏子地である旧山田村(現在の舞子)を加えた5つの布団太鼓が古くより伝えられており、毎年、これらの5つの布団太鼓が巡行し、各地で行われる垂水の秋祭りを盛大に盛り上げていきます。

現在では、時代の変遷とともに生活様式が大きく変化し、後継者不足が深刻化するなど、各地の伝統

文化を取り巻く状況は非常に厳しい状況にあります。

そのような中であって、各地の特色ある布団太鼓を克明に記録し、後世に継承する本誌の発刊は、意義深いことであり、垂水郷土芸能保存会の皆さんをはじめ、作成にあたって中心的な役割を果たしていただいた各地域の青年会の皆さんのご尽力に改めて感謝申し上げます。

この「垂水の布団太鼓」を読まれたすべての方々が、地域の歴史や伝統文化を再認識し、垂水に愛着と誇りを持っていただくことができるよう心から祈念いたします。



垂水郷土芸能保存会
会長 川崎 聰和

皆様方にはご清祥の毎日とお慶び申し上げます。

このたび、垂水郷土芸能保存会において、垂水区の伝統行事の保存と継承のため、垂水の布団太鼓にかかる冊子を作成していくこととなりました。

作成にあたっては、各地域の皆様にも布団太鼓に関する資料をご提供いただくなど、多くのご協力をいただきました。

おかげさまで、垂水郷土芸能保存会としての冊子がまとまりました。

冊子の作成に関係された皆様方のご協力に感謝申し上げます。

本冊子が、今後、布団太鼓はもとより、古くから伝わる地域毎の伝統行事の継承に役立つことを願っています。

平成29年10月

目次

ごあいさつ	1
垂水村と布団太鼓	3
布団太鼓構造図・名称	5
西垂水布団太鼓	7
東垂水布団太鼓	9
東高丸布団太鼓	11
塩屋布団太鼓	13

西垂水・塩屋布団太鼓の歴史	15
東垂水・東高丸布団太鼓の歴史	16
令和元年の奉祝垂水布団太鼓巡行	17
海神社秋祭り布団太鼓四台練り	18
舞子布団太鼓	19
舞子布団太鼓の歴史	21
ご協力者一覧・編集後記	22

垂水村と布団太鼓

明治22年の市制・町村制施行に伴い、明石郡垂水村が誕生した。

当時の垂水村にはいわゆる旧7か村（西垂水、東垂水、塩屋、山田（現在の舞子）、多聞、名谷、下畑）と呼ばれる大字が存在していた。
現在の布団太鼓は、海神社の氏子地区である西垂水、東垂水、東高丸、塩屋にそれぞれ1台ずつ、舞子六神社の氏子地区である山田（現在の舞子）に1台存在する。



海神社



舞子六神社



●布団

平屋根の三段布団である。布団に刺繍が入るのは大変珍しく垂水の太鼓の特徴である。



●勅額

氏神様を祭る神社を掲げている。



●布団締め

帯の布団締めと綱の布団締めがある。



●布団台

淡路型と三木型と呼ばれる布団台がある。



●昼提灯

龍や神社などの絵柄がある。かつては、夜提灯も存在した。



●半鐘

垂水の布団太鼓に半鐘がつくのは、東垂水の壇尻文化のなごりとされる。



●水引幕

金糸などの豪華な刺繍が施されたもので、阿吽の龍などの絵柄が用いられる。



●高欄掛

豪華な刺繍で龍、虎、鯨、唐獅子、武者の退治物や合戦物がある。

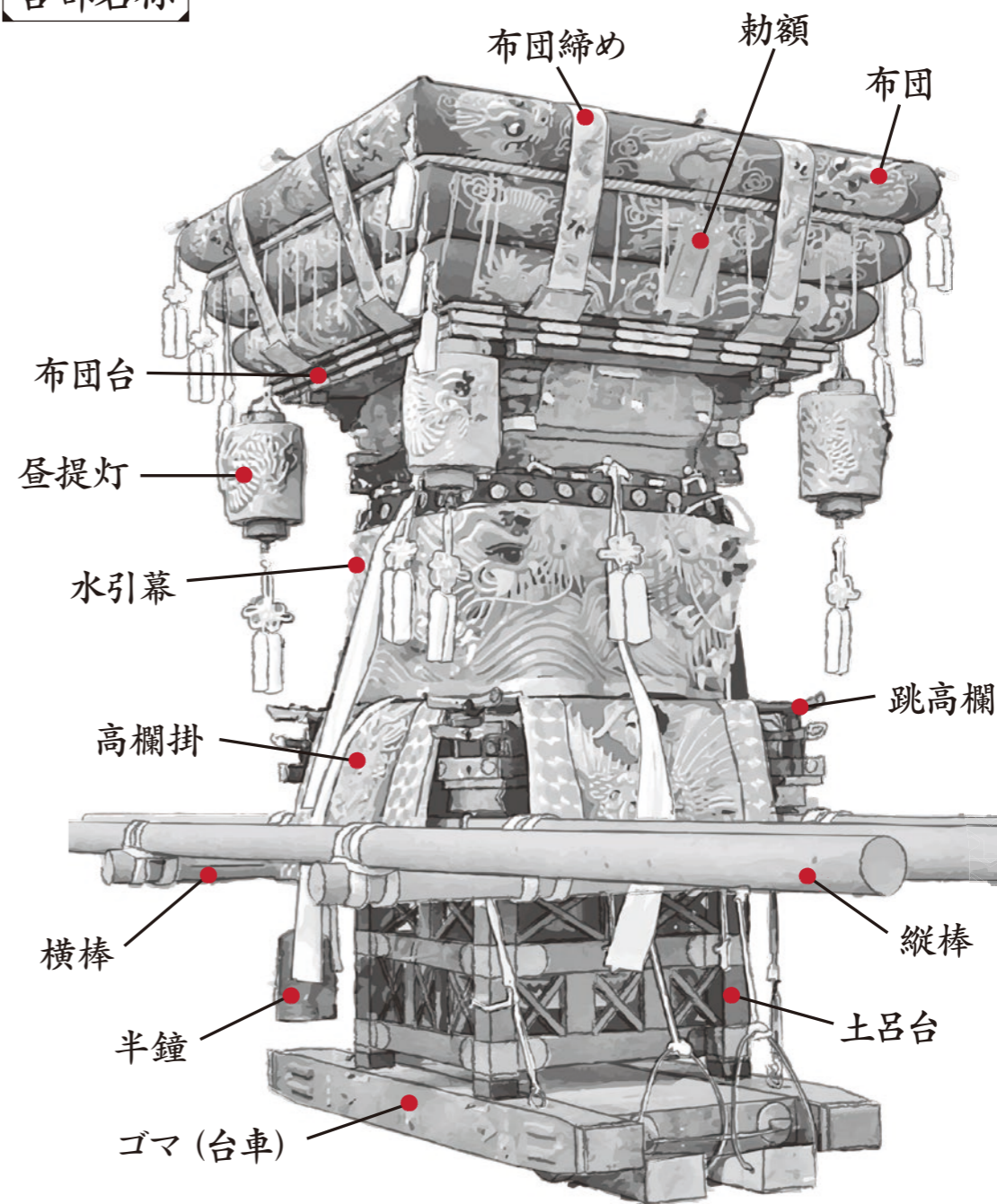


●土呂台

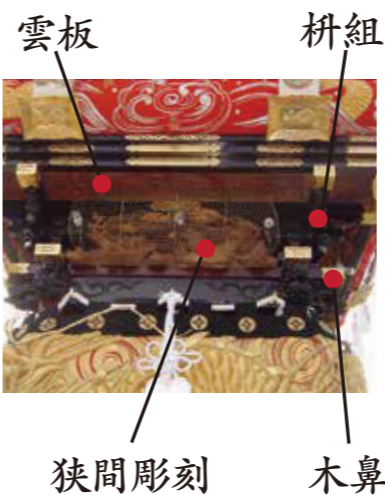
泥台とも呼ばれ、布団太鼓の土台となる。土呂幕の形状は、平格子、菱格子、まれには彫刻が施されたものがある。



各部名称



布団太鼓構造図・名称



●ゴマ (台車)

布団太鼓は檣と台車に分かれており、移動や豪快に走る時は、檣は台車にターンバックルで固定されている。前後にブレーキ係が配置されており、ブレーキは木製のウェッジをゴマの下に入れてスピードを調整する。ここが布団太鼓運行の心臓部である。



ゴマとよばれる木製で頑丈に造られており鋼鉄の六つの車輪が埋め込まれている。



ブレーキを吊っているロープの結び方が船のモヤイ結びと同じところが海の祭りの象徴である。



西垂水

黒檀、紫檀、鉄刃木をふんだんに
使用した自慢の布団太鼓



実盛
ご上洛
稲の虫や
おし共せい

斉藤実盛が稲の切り株に脚を取られたことで首を打たれ、その恨みで稲の害虫になった故事から由来した虫送りの音頭である。西垂水が漁業だけでなく農業も盛んであったことが伺える。



● 高欄掛けは「源三位頼政 蛇身鳥退治乃図」



● 布団の四面には『八大龍王』とよばれる八匹の龍の刺繍が施されている

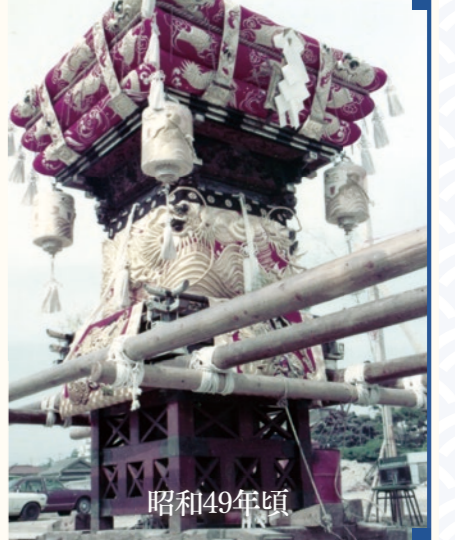


● 昼提灯は紀繡乃や作「二見ヶ浦曙乃図」



● 水引幕は須磨細川作『阿吽の龍』

現在の布団太鼓は明治29年に日清戦争の戦勝記念に制作された。
西垂水村には、有栖川宮家の別荘(現在の舞子ビラ)があったことから、小松宮彰仁親王様が書かれた勅額が海神社の社殿と西垂水の太鼓倉にあり、布団太鼓にも菊花紋章が使用されていることが大変興味深い。
材料は黒檀、紫檀、鉄刃木などの唐木をふんだんに使用しているため、かなりの重量がある。
淡路島五色町の大工職人が西垂水村で布団太鼓を組み上げたそうである。
西垂水の太鼓巡行は、昭和30年代中頃諸事情により巡行を中断していたが昭和48年に巡行を復活して現在に至っている。



昭和49年頃



● 東垂水の布団太鼓は、三木型といわれる豪華な二段の雲板が特徴である



● 高欄掛では珍しいお城の図柄であり、これはかつて存在した『須磨の松岡城』である



● 平成18年に新調した二重透かしうっとり彫りの跳ね高欄



● 昼提灯は『鯉』



浜の大鳥居を全速で曲がる練りは最大の見せ所である。

全速で相手の太鼓の手前で止める『寸止め』は棒鼻、プレーキ系の息の合った技である。



太鼓の練り

垂水の布団太鼓は、時に荒々しく、時に優雅に垂水の町を練る。全速で走る、曲がる、止まる、そして担ぎ天高く差し上げる。これが垂水の布団太鼓の特徴である。布団太鼓は、担ぎ手達の推進力、担ぎ棒の前後先にある棒鼻と呼ばれる担ぎ手の舵取り、プレーキ系の息の合ったタイミング、追子の音頭、拍子木これらがひとつになり練ることができる。



東垂水

かつての壇尻を彷彿とさせる
豪快な走りの布団太鼓

東垂水の布団太鼓は、明石市史の記録によると明治2年の岩屋神社秋の例大祭で明石城に20台の太鼓が集まった。そのうちの1台が東垂水の布団太鼓とされていることから、東垂水の布団太鼓巡行は140年以上前から練っていると思われる。三代目となる現在の布団太鼓は昭和34年に購入した。その後何度かの改修により布団の刺繍、布団台の意匠を変更している。平成18年の大改修では、布団、布団台、雲板、跳高欄等を、平成28年には高欄掛を新調した。全速で走る、曲がる、止まる、そして担ぎ天高く差し上げる。これが東垂水の布団太鼓の特徴であり、播州地区の祭りの中でも非常にめずらしい布団太鼓である。



昭和49年頃



東高丸

梶内だんじり先代
梶内近一氏作の布団太鼓



海神社への宮入

氏子4地区の太鼓が海神社へ宮入する。
布団太鼓の宮入はにぎやかかとして、
氏子達が秋祭りを盛り上げるひとつとされている。
宮入をするには、宮入之証が必要である。
宮入之証は11日浜の大鳥居を一番にくぐる地区が
海神社から受け取り宮入後次の地区に手渡す。
宮入は大鳥居をくぐり国道2号線で
右回りに一回差し上げ石鳥居をくぐり
社殿前まで布団太鼓を持ってくる。
平成28年の12日の宮入は
東垂水、西垂水、塩屋、東高丸の順での宮入であった。

宮入之証



海神社へと
続く馬場先
(参拝道)



● 夜宮での海神社宮入



● 東高丸の子供奉仕



● 昼提灯は『二見ヶ浦の日の出』



● 高欄掛けは『甲賀三郎飛龍退治』

東高丸の布団太鼓巡行は、昭和10年頃から始まったとされる。
先代の布団太鼓は、淡路島から購入して昭和29年頃まで練る。
現在の布団太鼓は二代目であり、昭和30年頃に淡路島梶内だんじりより購入した。
新調した衣装一式は、先代梶内近一氏の最高傑作品だとされている。
その後布団締め、布団台、挟間彫刻等を新調して現在の姿になった。
海神社への宮入は昭和30年代中頃から国道の交通量増加によりなくなった。その後は地区内のみでの巡行に留まり、布団太鼓を出さない年も何年か続き、昭和63年頃の巡行を最後にしばらくの間、中断されていた。
平成に入り、昔の担ぎ手の達が青年会を結成して、平成16年に布団太鼓巡行を復活させた。



昭和51年頃



●平成24年に新調した「阿吽の龍」の屋提灯



●平成30年に修繕した布団締め



●狭間彫刻（阿吽の龍）と虹梁（木下藤吉郎と蜂須賀小六）



●令和3年に四本柱拡張と布団刺繍を追加



塩屋

約半世紀ぶりに復活を遂げた布団太鼓



白虎 (びゃっこ)



玄武 (げんぶ)



朱雀 (すざく)

乗り子半纏

●令和元年新調



蒼龍 (そうりゅう)

乗り子半纏

乗り子（太鼓叩きの子ども）の象徴となる衣装を令和元年に新調した。布団太鼓の乗り子として子ども達の憧れる存在となり価値を見出すことに繋がってほしいという思いを込めて製作した。

塩屋の先代の布団太鼓巡行は明治38年頃東垂水の布団太鼓を譲り受けたとされる。当時は11日の午後から布団太鼓を出し滝の茶屋から旧国鉄須磨駅付近までの国道2号線を練ったそうである。12日の午前中に国道2号線を練り海神社へ宮入をした。昭和30年代中頃、国道2号線の交通量増加などの諸事情により海神社への宮入はなくなった。その後5年ほど塩屋の浜に11日・12日と布団太鼓を飾っていたが、昭和43年頃に売却した。平成20年、加古郡播磨町本荘地区の布団太鼓を購入した。この布団太鼓は大阪の河内で製作され、当時の明石岩屋神社の氏子である旧御幸道地区が購入した。五段布団の大阪型の布団太鼓であった。その年は塩屋の浜に飾り、平成21年より布団太鼓巡行が復活した。その後平成23年に三段布団と屋提灯を新調、櫓を大改修して現在の姿になった。



昭和34年布団太鼓購入



昭和30年代太鼓蔵

東垂水布団太鼓の歴史



平成10年頃



昭和30年代布団太鼓宮入



昭和30年代先代の地車



昭和30年代海神社宮入



昭和26年頃海神社宮入

西垂水布団太鼓の歴史



平成5年頃



昭和28年頃乗り子



昭和49年頃海神社宮入



昭和20年代瀧の茶屋付近



昭和20年代海神社宮入

東高丸布団太鼓の歴史



昭和30年代



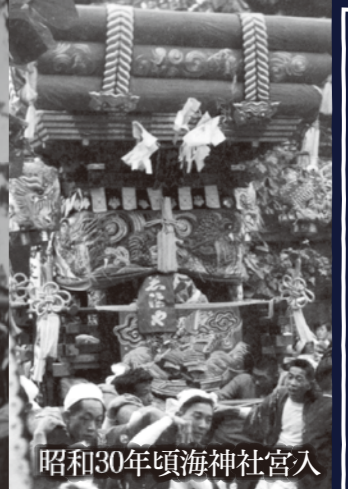
昭和63年頃



平成29年



昭和30年代海神社宮入



昭和30年頃海神社宮入

塩屋布団太鼓の歴史



昭和30年代国道2号線



昭和30年代海神社宮入



平成21年布団太鼓復活



平成28年垂水漁港で行われた四地区での
布団太鼓練り合わせ

海神社秋祭り布団太鼓
四台練り



西垂水布団太鼓の宮入



東垂水布団太鼓の宮入



西垂水布団太鼓



東垂水布団太鼓



塩屋布団太鼓やり回し



東高丸布団太鼓



令和元年5月1日垂水駅前レバンテ広場での鏡開き

令和元年の奉祝垂水布団太鼓巡行



国道2号線を練る西垂水布団太鼓



初の四地区布団太鼓海神社宮入



西垂水布団太鼓差し上げ



東垂水布団太鼓



東垂水布団太鼓・塩屋布団太鼓差し上げ



国道2号線を練る東高丸布団太鼓

舞子布団太鼓の歴史

舞子の布団太鼓の生い立ちは、資料保管倉が過去2度にわたり火災にあい紛失していることから完全な資料が現存しておらず、各人の語り継ぎによる。

舞子六神社の神輿は明治12年に再建している。同時に布団太鼓2台を新調したと思われる。

神輿と神輿を載せる台車は京都で作らせたのではないかと思われる。その時期に布団太鼓の金刺繍を買い入れ、当時の青年会が開いた地域の若い衆総会で、総代会の方々の指示により、太鼓の幕・掛け幕（水引き）提灯等、龍の刺繍を台布に縫い付けたと聞いている。この作業は、約1年間に渡り、昼夜にかけて分担して行われたようである。

毎年、祭りは10月8日宵宮、9日大祭として巡行していた。神輿は御所車に乗せ、その前後を布団太鼓がお守り

しながら地域全体を巡っていた。戦時中は一時中断されていたが、戦後の昭和22年に復活させ、今日に至っている。昭和30年代初め頃まで、国道2号線で布団太鼓2台が東西に分かれ、練り合わせやぶつかり合いが夜遅くまで続き、祭りは大いにぎわっていた。このぶつかり合いでは、太鼓が早くなり、相手の屋根を狙って進み、屋根と屋根とが組み合う。一方の屋根が壊れて勝負がつくまで行つたと言う。

しかし、昭和30年代後半、延焼により布団太鼓2台や幕、その他一式が焼失してしまい、長年、神輿だけで秋祭りを行っていた。現在、巡行している布団太鼓は、明石市旧七軒町の三枚布団太鼓であり、平成10年に岩屋神社の境内に長く置いていたものをそのまま譲り受けた。布団締め、水引き幕、高欄掛等も当時の岩屋神社の宮司より貰い受け

た。担ぎ棒は中八木から買入れ、大穴の空いていた太鼓は全面修理をして現在使用中である。まさに40年ぶりの復活であった。その後も西舞子町の皆様方からご賛助金を賜り、倉の改築、台車の購入、本体の修理等を実施していった。さらに、平成22年には平屋根型から半反り屋根型へと変えていった。なお、雲板や挟間彫刻等は、松本義廣氏による明治39年作と記されており、今年で116年目の布団太鼓となる。巡行は、復活して2年程は、旧山陽道の往復のみで、国道2号線及び舞子多聞線の通行はなかなか許可されなかった。3年目には、布団太鼓本体を屋根、土呂、台車と3分割してトラックに載せ、舞子会館前で再度組み立てなおして町内を巡行した。4年目に国道2号線を通り、西舞子2丁目から7丁目まで巡行することが可能となり、現在に至っている。



昭和30年代頃の先代布団太鼓



明石市旧七軒町当時の布団太鼓



国道2号線を練る舞子布団太鼓

ご協力者(敬称略)

写真・資料等提供者

- 森行善彦 (海神社わつつみ会館写真室)
- 吉川純行 (西垂水地区)
- 松下源三 (西垂水地区)
- 蓼原幸雄 (西垂水地区)
- 松下孝治 (西垂水地区)
- 藤田勝尋 (東垂水地区)
- 山下實 (東高丸地区)
- 富田隆義 (東高丸地区)
- 長谷川幸夫 (塩屋地区)
- 富士健二 (舞子地区)
- 塩屋百年百景
- 平松俊 (塩屋地区)
- 藤野直計 (神戸フォトミュージアム)
- 米村環 (三木市)

製作協力者

- 岡本真幸 (西垂水青年会)
- 西村和基 (東垂水青年会)
- 迫立俊行 (東高丸北青年会)
- 岸部克俊 (塩屋青年会)
- 酒井亮一 (布団太鼓舞子会)
- 西垂水財産区管理会の皆様
- 東垂水財産区管理会の皆様
- 東垂水北財産区管理会の皆様
- 塩屋財産区管理会の皆様
- 舞子財産区管理会の皆様
- 藤本庸文 (明石の布団太鼓プロジェクト)
- 谷林正紹 (兵庫県立西宮高等学校教諭)
- 黒田一美 (兵庫県会議員)
- 橋本嘉津雄 (西垂水地区)
- 森本政美 (東高丸地区)
- 辻本豊和 (東高丸地区)
- 梶内だんじり株式会社
- 海神社
- 舞子六神社
- 北川武志 (塩屋青年会 垂水郷土芸能保存会臨時会員)

編集後記

財産区OB青年会一同、地域発展並びに伝統を後世に残す為西垂水の誇りを胸に今後も誠心誠意努めてまいります。

西垂水青年会 岡本 真幸

東垂水青年会一同地域の皆様との和を大切に考え若い世代に伝統を残すべく運営していく考えです。御支援、御鞭撻の程、宜しくお願い致します。

東垂水青年会 西村 和基

昭和10年から始まった布団太鼓巡行は休止期間を経て、平成16年に先代達が復活させて下さりました。地域の皆様の御理解と御協力の元、郷土芸能を保存する大切な役割を担わせて頂いております。今後もし所懸命に取り組んでまいりますので、暖かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。

東高丸北青年会 迫立 俊行

平成21年に布団太鼓が復活して以来、地域の皆様に支えられ今日に至る事ができました。布団太鼓を地域の郷土芸能として継承できるよう、より一層精進してまいります。

塩屋青年会 岸部 克俊

布団太鼓が復活して24年。地域の皆様からの温かいご支援のもと発展することができました。心より感謝申し上げます。

布団太鼓舞子会 富士 健二



垂水区ホームページにて動画も公開しています

【編集・発行】

垂水郷土芸能保存会

初版 第1刷 平成29年10月 発行

神戸市広報印刷物登録 平成29年度第214号(広報印刷物規格A-1類)

第2版 第1刷 令和4年3月 発行

神戸市広報印刷物登録 令和3年度第562号(広報印刷物規格A-1類)

【おことわり】

記事の内容・年代・日付・場所などにつきましては、誤り・漏れのないようできるだけ確認しましたが、万一誤り・漏れなどがございましたらご容赦ください。

